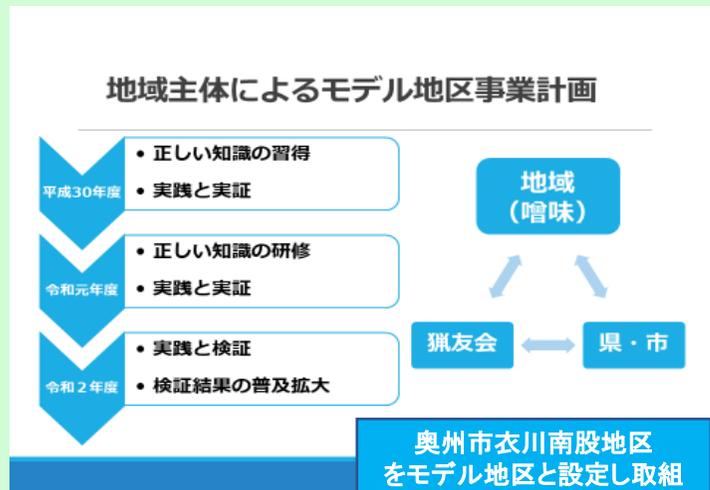


地域ぐるみのイノシシ被害防止対策（岩手県奥州市衣川）

- 地域主体によるイノシシ被害対策モデル地区に位置づけ、重点的な被害対策を開始（平成30年～）
- 被害対策の専門家による、イノシシの生態や正しい防除方法についての研修会に参加し、正しい防除知識を学ぶ（平成30年）
- イノシシ等有害鳥獣の侵入を防ぐため、電気柵を設置（平成30年度～）
- 箱わなを活用した捕獲活動開始（平成30年度～）
- イノシシ被害の情報共有、被害防止対策の手がかりを探るため、集落環境診断を実施（令和元年度）
- イノシシの集落への侵入を誘引する放任果樹等の伐採を実施（令和2年度）
- 有害捕獲活動時の実施隊員による罟等の見廻り負担を低減し、捕獲効率の向上を図るため、有害捕獲サポーターを設置（平成30年度～）

取組内容



成果

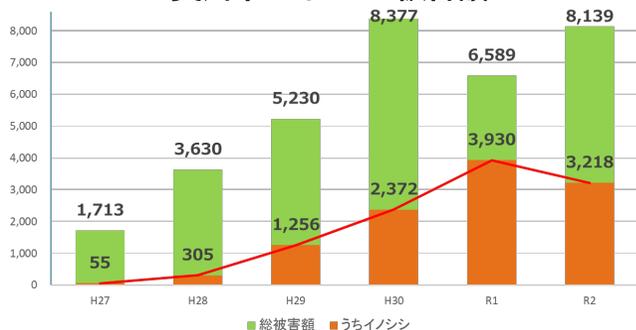
- 自主防除意識の醸成
研修会への参加や、被害農家が有害捕獲サポーターとして捕獲の補助に携わることで、地域の農地は地域で守る意識が醸成
- 電気柵等被害防止施設の増加、取組の波及
各補助事業を活用し、電気柵を設置する農家が増加
・電気柵設置：H30年度 1,000m → R2年度 3,100m
- 有害捕獲サポーターの増加
被害農家と実施隊が連携することで、効率的な捕獲体制が構築。
・有害捕獲サポーター数：H30年度 3名 → R2年度 21名
- イノシシ捕獲頭数の増加
・H30年度 10頭 ・R2年度 85頭

地域ぐるみのイノシシ被害防止対策(岩手県奥州市衣川)

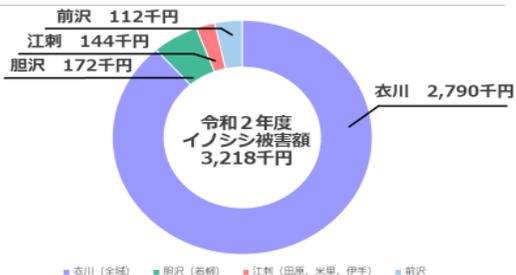
1 活動動機・背景

- 平成26年度に奥州市で初めてイノシシが目撃されて以降、被害が増加
- 行政、猟友会のマンパワーによる取組だけでは、限界があると痛感
- 地域ぐるみの被害防止対策が必要と判断

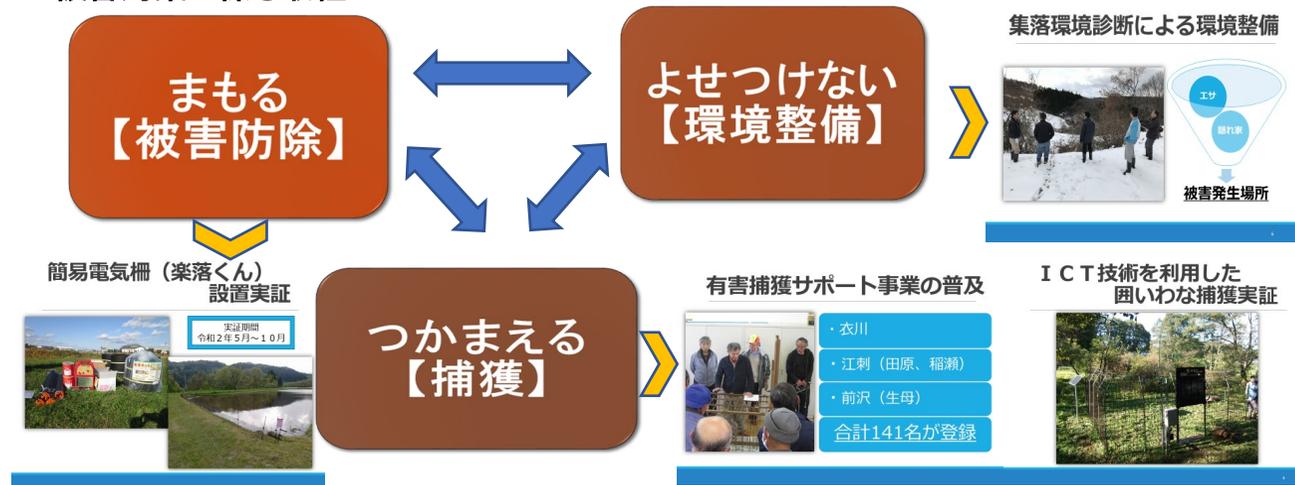
奥州市のイノシシ被害額



イノシシ被害の割合【地域別】



2 被害対策に係る取組



3 活動経過

1年目の取組み(平成30年度)
被害防止対策研修会への参加



② 電気柵の購入設置



2年目の取組み(令和元年度)
①集落環境診断の実施



②有害捕獲サポーターへの登録



3年目の取組み(令和2年度)
放任果樹の伐採



4 取組成果

- 自主防除意識の醸成
- 有害捕獲サポーターの増加
 - ・H30年度 3名
 - ・R2年度 21名 (南股地区)
- イノシシ捕獲頭数の増加
 - ・H30年度 10頭
 - ・R2年度 85頭